

2027年3月卒者(大学・大学院卒) 「新卒者採用に関する進捗調査」 集計結果報告

公益財団法人就職支援財団が、県内企業の2027年3月卒業予定の新卒者(大学・大学院卒)採用活動の8月時点での状況について調査しました。

調査の趣旨

この調査は、静岡県内企業における新卒採用活動の現時点での進捗状況を収集し、企業・学校・学生へタイムリーに情報を展開することで、今年度の企業の採用活動、学生の就職活動への対応策提言の資料としていくものです。

調査要領

■調査対象

静岡県内企業の経営者もしくは人事担当者

従業員数: 49人以下28.7%、50～99人23.3%、100～299人26.0%、300人以上22.0%

業種: 製造業28.2%、建設業13.7%、卸売・小売業19.3%、サービス業34.0%、農林漁業4.8%

■調査期間

2026年8月7日～8月31日

■調査方法

2026年5月実施「新卒者採用に関する実態調査」(しずおか産学就職連絡会)の調査票送付先及び、新卒媒体やイベント等で新卒者を募集している企業から900社を抽出。調査依頼文を郵送し、WEBサイトにてアンケート回答

■有効回答数

373サンプル (有効回答率 41.4%)

※集計は、調査対象のプロフィール以外、非該当・不明を除いて実施。また、小数点以下第2位を四捨五入して表記しているため、合計が100%にならない場合がある。

<調査に関する問い合わせ先>

公益財団法人 就職支援財団

担当: 鈴木 TEL 054-271-3111

【総括】	3P
【調査結果】	
Ⅰ. 2027年3月卒者(大学・大学院卒)の採用活動実施状況	4P
Ⅱ. 選考プロセスにおける状況の前年度比較	5P
Ⅲ. 採用活動終了企業の活動実績	6P
Ⅳ. 今年度の採用活動の状況	6P
Ⅴ. インターンシップの実施状況	7P
Ⅵ. 2028年3月卒者の採用活動について	8P

＜今年度採用活動の概況＞

売り手市場の傾向は続いているが、一部で底打ち感が見られる。採用活動の早期化傾向は続いている。

- ①採用活動を継続している企業の割合は55%で、前年を3ポイント下回った(図表1)。採用意向のある企業の採用活動の継続率は75%で前年を1ポイント下回っている(図表2)。採用活動の継続率はいずれも前年数値を下回った。
- ②採用計画人数の充足を見込めていない企業は49%で、前年を14ポイント下回った(図表4)。充足できそうな企業は18%で前年を8ポイント上回っており、前年よりも改善傾向が見られる。
- ③県東部地区の企業が苦戦している様子がうかがえる。充足できそうにない企業の割合は県東部が59%で最も高く(図表5)、応募者数の減少、内定者数の減少についても他地域より厳しい数値となっている(図表7、9)。今年度の採用活動の進捗においても、他地域よりも「進捗が悪い」と回答している企業の割合が多く、その割合は5割を超えている(図表15)。
- ④採用活動を終了した企業では活動終了時期が前年より早まっている。就活ルール上では選考開始とされている6月よりも前の「5月」までに終了した企業の割合は44%で前年よりも8ポイント増加している(図表12)。

＜インターンシップ等(※)の概況＞

※三省合意で認められるインターンシップ以外に、これまでインターンシップと呼んでいた1日や2～3日の短期開催のものも含めて、当報告では「インターンシップ等」と表現します。

インターンシップ等の実施率は前年を下回ったが、開催期間の長期化傾向は続いている。

- ①インターンシップ等の実施率は53%で、前年を7ポイント下回った(図表16)。
- ②実施期間は従前通り「1日」が最も多く68%だが、前年よりも1ポイント低下した。一方「2～3日間」は44%で前年を1ポイント、「2週間以上」は6%で前年を3ポイント上回っている(図表17)。インターンシップの実施率の低下とも関連するかもしれないが、採用に繋がるかどうかインターンシップの実施に影響を与えているように思われる。実施期間「1日」よりも「2～3日間」の方が繋がる確率が高まると企業側は考えているのではないかな。
- ③受入学年は「大学3年生」が88%で最も多いが、「大学2年生」が54%、「大学4年生」が48%となっている(図表18)。採用活動の早期化により「大学3年生」の動員が難しくなっていることから、大学1、2年生まで受入枠を拡げていると考えられる。
- ④参加学生へのフィードバックを「参加者全員に直接している」企業は5割を割っている。逆に「フィードバックをしていない」企業の割合は4割弱となっている。フィードバックに対する学生の納得度を「まあ納得されている」と考えている企業は8割を超えているが、「十分に納得されている」と考えている企業は1割強にとどまっている。学生のインターンシップの参加満足度に大きく影響する「フィードバック」については改善の余地がありそうだ。

＜今後の採用活動について＞

早期化傾向はますます強まることが予想される。本格的な活動時期に入る前に、低学年の学生と接触すること、そして接触の質を高めることが今後の活動の鍵になりそうだ。

静岡の企業でも2028年3月卒者の採用活動を年内に開始する企業が31%となっており(図表22)、その割合は前年より1ポイント増えている。学生は大学3年生の春から就職の意識が高まるため、就職の意識が高まってしまうと、これまで知らなかった地方の中小企業への関心は向きにくくなる。大学1、2年生のうちにいかに認知してもらえるかが重要となると考えられる。そのためには様々な切り口、機会でも多くの学生と接触することが重要である。さらに接触するだけでなく接触の質を高めるための取組みを意識すべきである。接触の質とは、例えばインターンシップ等のまとめでも述べた、2～3日以上を費やしたインターンシップ等の内容の充実、参加学生へのフィードバックの徹底などである。

弊財団においても具体的なフィードバックができるシステムの開発を検討している。また、学生との接触機会の増加のために企業と大学生(1、2年生が中心)とのカジュアルな交流イベントを12月実施予定である。弊財団だけでなく、このように取組みに積極的に参加することをお勧めしたい。

※総括及び調査結果のTOPICSのコメントにある“前年”とは、“前年同時期”の調査となります。

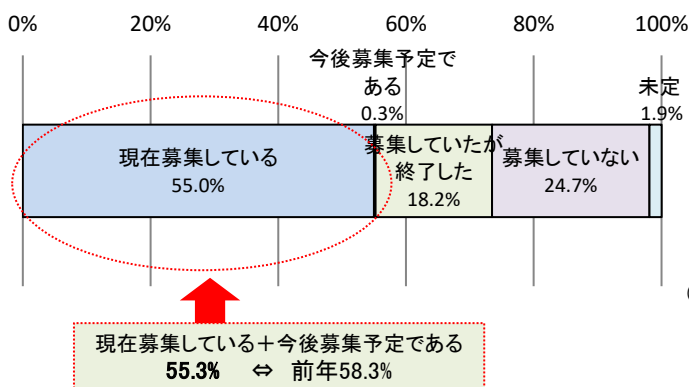
【調査結果】

I. 2027年3月卒者(大学・大学院卒)の採用活動実施状況

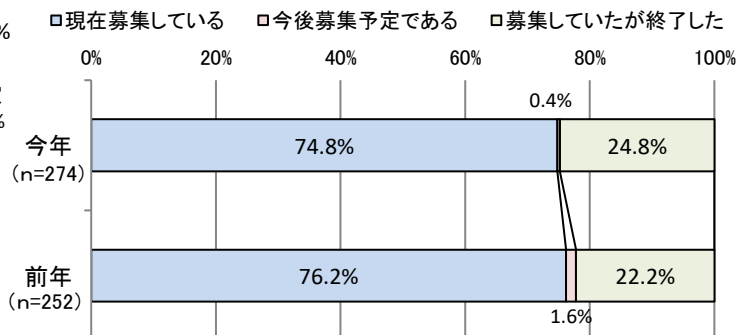
<TOPICS>

- 採用活動を継続している、あるいは募集予定のある企業は全体の55%で、前年を3ポイント下回っている(図表1)。
- 採用意向のある企業の採用活動の継続率は75%で、前年を1ポイント下回っている(図表2)。
- 業種別に見ると、「製造業」の継続率が86%で最も高い(図表3)。
- 採用継続企業のうち今年度の採用計画を充足できそうにないと回答した企業は49%で、前年を14ポイント下回っている(図表4)。
- 地域別に見ると、「県東部」が充足できそうにない企業の割合が最も高く59%となっている(図表5)。

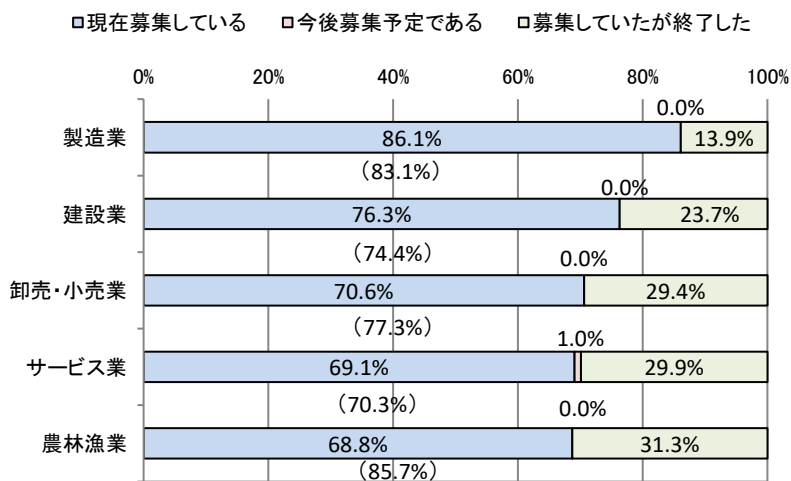
(図表1) 2027年3月卒者の採用募集状況(n=373)



(図表2) 採用意向のある企業の活動継続率



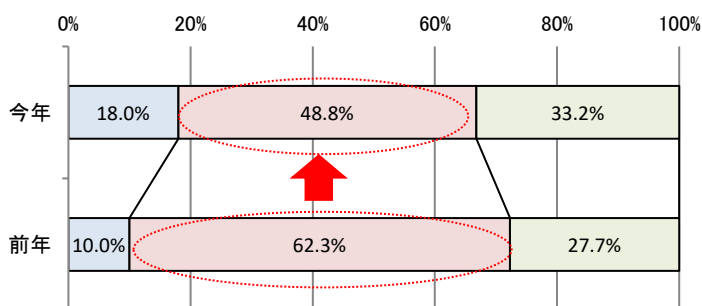
(図表3) 業種別: 採用意向のある企業の活動継続率



表中の()内は前年数値

(図表4) 採用継続企業の採用計画充足見込(n=205)

□充足できそう □充足できそうにない □わからない



(図表5) 地域別: 採用継続企業の採用計画充足見込

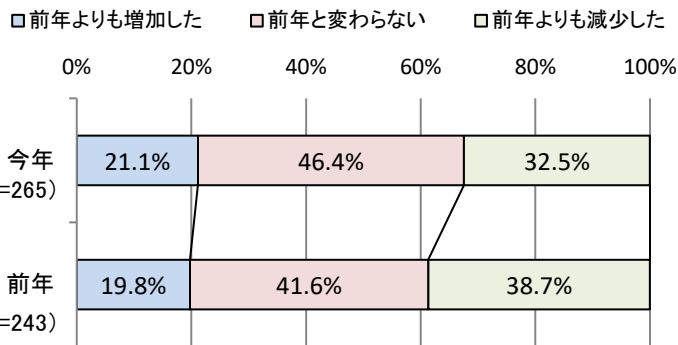
	充足できそう	充足できそうにない	わからない
県東部	15.2	58.7	26.1
県中部	18.9	40.5	40.5
県西部	18.8	50.6	30.6

Ⅱ. 選考プロセスにおける状況の前年度比較

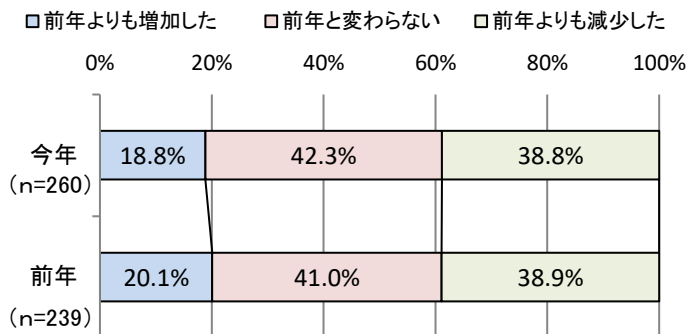
<TOPICS>

- ・応募者数は「前年と変わらない」企業の割合が46%で最も多く、前年を5ポイント上回っている(図表6)。
- ・面接者数は「前年と変わらない」企業の割合が42%で最も多く、前年を1ポイント上回っている(図表7)。
- ・これまでに内定を出している企業の割合は62%。地域別に見ると「県東部」がその割合が最も低く5割を割っている(図表8)。
- ・最初に内定を出した時期は「2026年2月以前」が38%で最も多い。3月までに内定を出した企業は5割を超える(図表9)。
- ・内定者数を前年度と比較すると、「前年よりも増加した」企業が34%、「前年よりも減少した」企業が35%となっている(図表10)。
- ・内定辞退者数を前年と比較すると、「前年と変わらない」企業の割合が45%で最も多く、前年を10ポイント上回っている(図表11)。

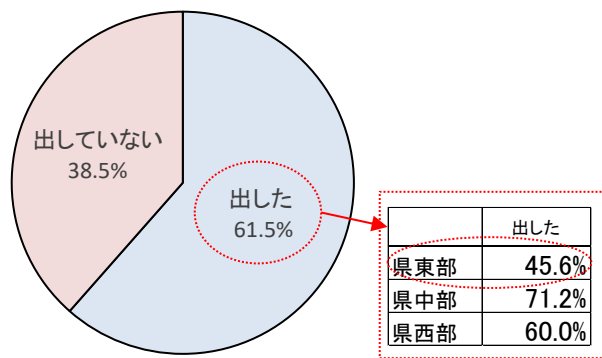
(図表6) 応募者数の前年度との比較



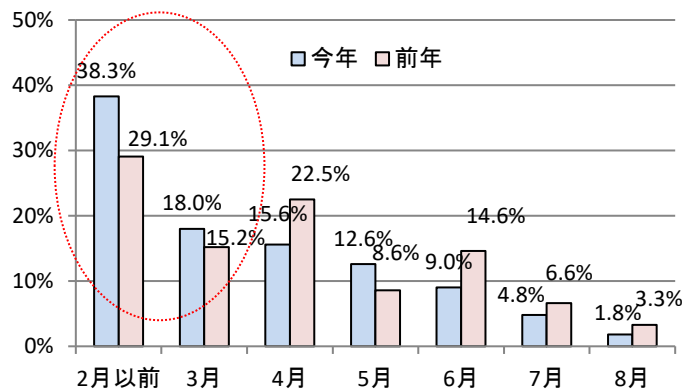
(図表7) 面接者数の前年度との比較



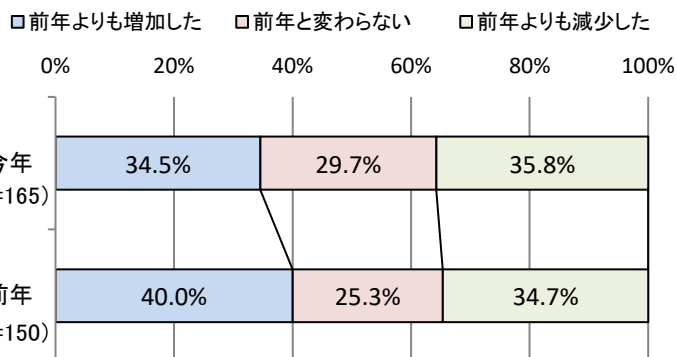
(図表8) 内定出しの有無 (n=248)



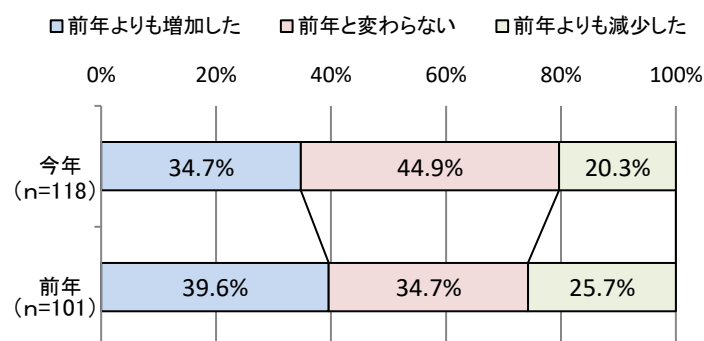
(図表9) はじめに内定を出した時期



(図表10) 内定者数の前年度との比較



(図表11) 内定辞退者数の前年度との比較

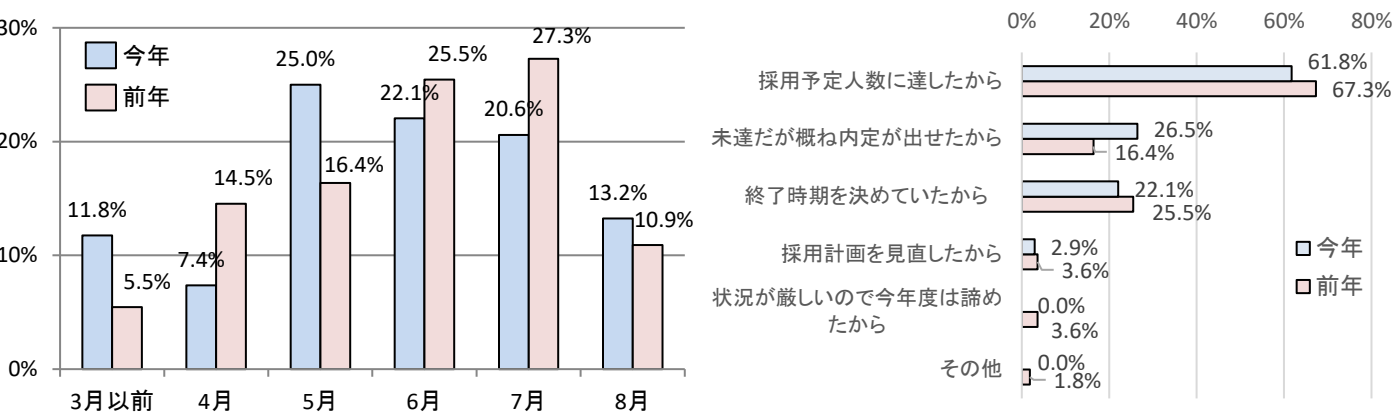


III. 採用活動終了企業の活動実績

<TOPICS>

- 採用活動の終了時期は「5月」が25%で最も多い。昨年と比較して割合が増えたのは「5月」が9ポイントと最も多く、次いで「3月以前」の6ポイントとなっている(図表12)。
- 採用活動を終了した理由は、「採用予定人数に達したから」が62%と最も多く、前年を6ポイント下回っている。「未達だが概ね内定が出せたから」は27%で前年を10ポイント上回っている(図表13)。

(図表12) 採用活動を終了した時期(今年n=68、前年n=55) (図表13) 採用活動を終了した理由(n=68、複数回答)

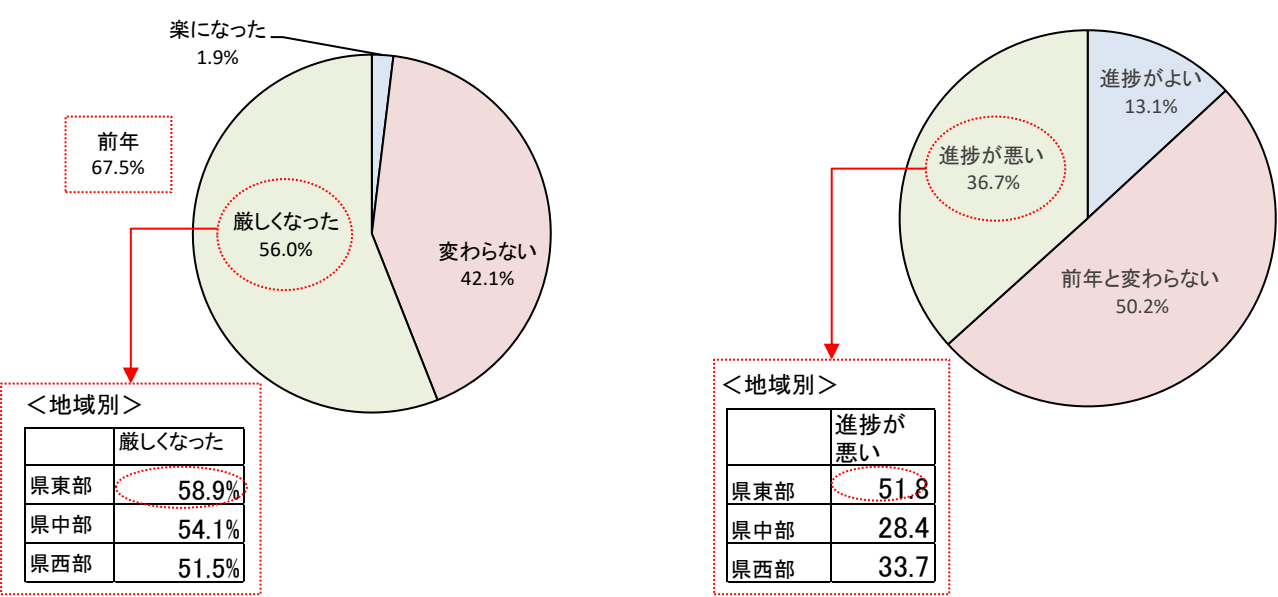


IV. 今年度の採用活動の状況

<TOPICS>

- 前年と比較した今年の採用活動の印象は「厳しくなった」と回答した企業の割合が56%と最も多いが、前年を12ポイント下回っている。地域別に見ると、「県東部」の企業は「厳しくなった」と回答した割合が59%と最も高い(図表14)。
- 前年と比べた選考の進捗は「前年と変わらない」が50%と最も多い。次いで「進捗が悪い」で37%となっている。地域別に見ると「県東部」が進捗が悪いと回答している企業の割合が多く、5割を超えている(図表15)。

(図表14) 前年と比較した採用活動の印象(n=259) (図表15) 前年と比較した採用活動の進捗状況(n=259)

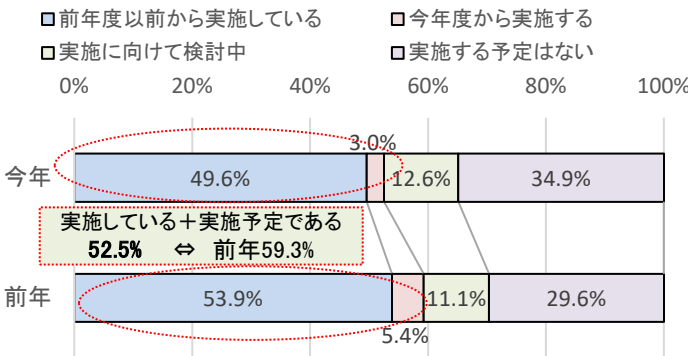


V. インターンシップ等の実施状況

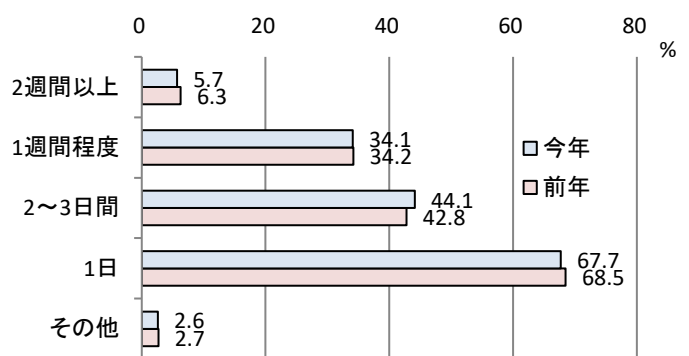
<TOPICS>

- ・インターンシップ等を実施している企業の割合は53%で、前年を7ポイント下回っている(図表16)。
- ・実施期間は「1日」が68%と最も多い。「2～3日間」は44%で前年を1ポイント上回っている(図表17)。
- ・受入学年は「大学3年生」が88%と最も多い。次に多いのが「大学2年生」の54%となっている(図表18)。
- ・参加学生へのフィードバックは「全員に直接」が47%、「フィードバックしていない」が35%となっている。地域別では「県東部」がフィードバックをしていない割合が最も高く5割を超えている(図表19)。
- ・フィードバックの手法・内容は「関係した社員からも直接伝達」が45%と最も多い(図表20)。
- ・学生の納得度に対する自己評価は「まあ納得されている」が83%、「十分納得されている」が14%となっている(図表21)。

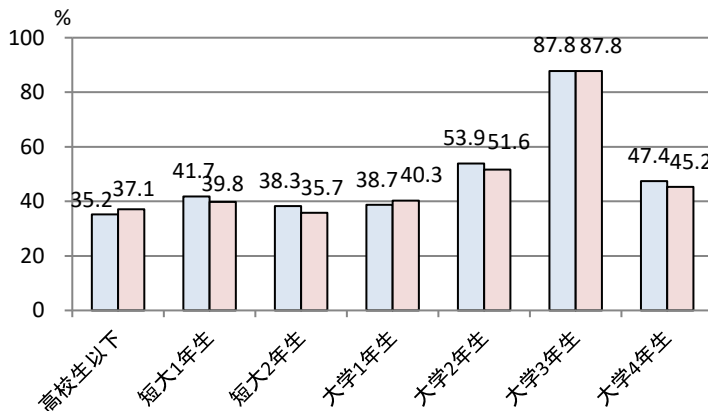
(図表16) インターンシップ等の実施状況 (n=373)



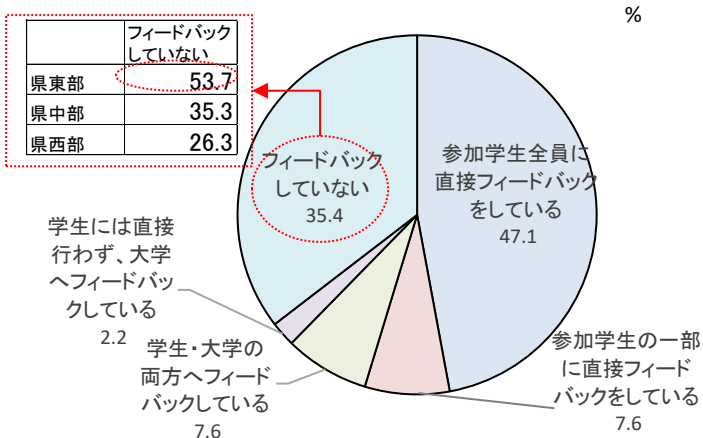
(図表17) インターンシップ等の実施期間 (n=229、複数回答)



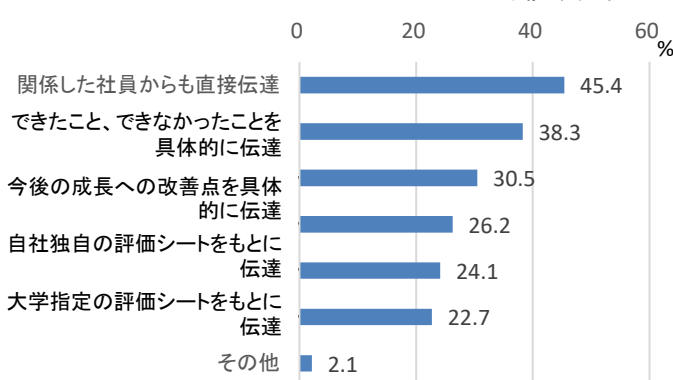
(図表18) インターンシップ等の受入学年 (n=230、複数回答)



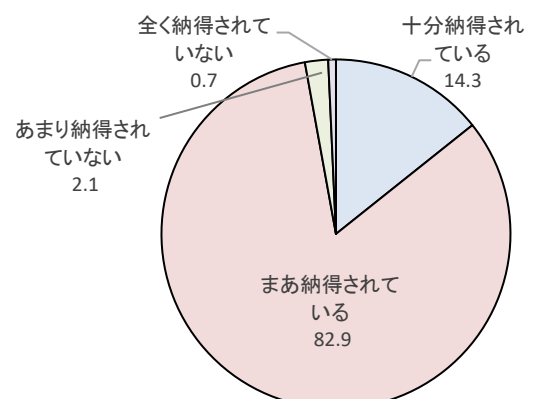
(図表19) 参加学生へのフィードバック実施状況 (n=223)



(図表20) 参加学生へのフィードバックの手法・内容 (n=141、複数回答)



(図表21) フィードバックに対する学生の納得度の自己評価 (n=140)

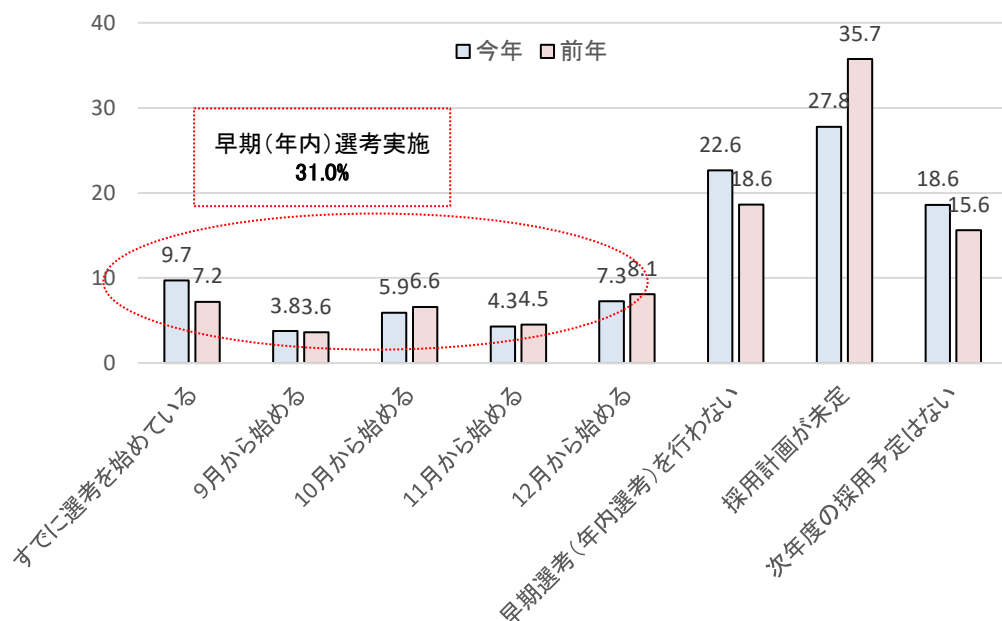


VI. 2028年3月卒者の採用活動について

<TOPICS>

- ・2028年3月卒者の選考について、「採用計画が未定」としている企業が28%と最も多くなっている。早期選考（年内選考）を実施予定の企業の割合は31%、早期選考（年内選考）を行わない企業の割合は22%となっている（図表22）。
- ・早期選考（年内選考）を実施予定の企業において、年内に内々定を出す予定の企業の割合は62%で、前年を5ポイント上回っている（図表23）。

（図表22）2028年3月卒者の早期選考（年内選考）の状況（n=371）



（図表23）早期選考実施予定企業の2028年3月卒者への内々定出しのタイミング（n=113）

